

# 版画 全国大会へいざ

盛岡・杜陵高定時制(三田正巳校長、生徒91人)美術・イラスト部の3人は、新潟県佐渡市で15〜19日に開かれる第25回全国高校版画選手権大会(はなが甲子園)の本選に出場する。繊細な表現や力強さなどそれぞれの持ち味とチーム力に磨きをかけ、上位入賞へ意欲を燃やす。

メンバーは4年の佐藤雅歌さん、2年の桜小路宗良さんと橋場健太さん。11府県の17校46チームによる1月の予選を経て、本選に出場する13チームに選ばれた。東北からは唯一、同校としては2年連続5回目の出場となる。予選には1人1作品を提出。佐藤さんは、捨てられた自転車にツタが絡まっている様子から、長い時間を感じさせる「追憶」を制作した。2

## 盛岡・杜陵高定時制の3人



はなが甲子園の本選に挑む(左から)橋場健太さん、佐藤雅歌さん、桜小路宗良さん

## チーム力磨き上位狙う

年連続の本選進出で「表現の幅が広がっている」と充実感があふれる。桜小路さんは学校の図書室で寝転んで読書を楽しむ自分を自身を描いた「無邪気な愛読

家」を制作。橋場さんの「竜巻鳳姿」はドライポイント技法を用い、繊細な線の動きで鳳凰や和柄を華やかに表現した。本選では佐渡島を題材にしたテーマが当日発表される。島内を巡って取材をした上で、長辺86センチ、短辺55センチ以内の木版画1作品を3人で制作する。制限時間は3日間。時間と体力の勝負となり、チームワークも重要だ。佐渡について調べたり、役割分担を確認したりして準備を整える3人。初出場となる桜小路さんと橋場さんは「自分のできることを頑張る。体調を整えてしっかりと完成させたい」と気合を入れる。4年間、はなが甲子園に挑んできた佐藤さんは集大成として「まずは楽しむ。責任感を持ちながら、後輩2人もやっけて良かったと思えるような大会にしたい」と臨む。(菊池瞳)